



会話から読み取る 企業実態

第5回

固定資産と減価償却費

(株)経済法令研究会・講師
(株)ブレインコンサルティング

三浦 英晶

(平成23年2月)

損得銀行の新葉勇四郎は、丸山二郎氏が営んでいる製麺所を訪問中である。

新葉…「私もラーメンは大好きで、週に二度は食べますよ」

丸山氏は「製麺所・菊花楼」という屋号で事業を営んでおり、細麺を中心とした中華麺を製造し、主に飲食店に向けて販売している。丸山氏からは運転資金融資の依頼があった。新葉は、今回の面談前に平成21年度の決算書と、22年度の決算前の試算表を預かっている。

新葉…「運転資金の融資を依頼されていますが、今回はどのような用途なんですか？」

丸山…「はい、実は、うちのお客さんはほとんどラーメン屋で、これまでは代金を月末締め・翌月15日支払いでお願いしていたんですが、支払いをもっと遅くしてくれないかと言われるお客さんが多くて……」

新葉…「そうなんですか。それ

【要約貸借対照表】

(単位：千円)

項目	金額		項目	金額	
	H21年度	H22年度		H21年度	H22年度
流動資産	8,969	5,780	流動負債	10,510	6,298
固定資産	16,589	14,586	1 (うち短期借入金)	3,987	1,854
有形固定資産	12,954	10,875	固定負債	8,880	7,322
1 (うち機械装置)	8,199	6,149	1 (うち長期借入金)	6,710	6,017
繰延資産	35	24	純資産	6,203	6,770
資産合計	25,593	20,390	負債・純資産合計	25,593	20,390

【要約損益計算書】

(単位：千円)

項目	金額	
	H21年度	H22年度
売上高	38,607	37,514
売上原価	29,258	27,917
(うち材料費)	14,144	13,877
(うち労務費)	4,116	4,001
(うち減価償却費)	2,050	1,537
売上総利益	9,349	9,597
販売費および一般管理費	8,633	8,729
営業利益	716	868
当期純利益	425	567

で、すでに支払いを伸ばしたところもあるんですか？」

丸山…「はい。なるべくそうしたくはないんですが、それで数軒からは製麺所をのりかえられてしまったんです」

新葉…「厳しいですね。では22年度の売上が100万円ほど下がったのは、おのおの客先からの注文数が減ったのではなく

客数の減少が原因なんですね」

丸山…「そうなんです……」

新葉…「仕入先のほうはいかがですか？」

丸山…「実はこちらも以前から、支払いを隔週にしたら値引きしてくれるという話があるんです。こちらもお金に余裕ができたらそうしたいんですよ」

新葉…「両方から板挟み状態で苦しいところですね。でも、仕入先には逆にこちらから値引き交渉はできないんですか？」

丸山…「小麦粉についてはそれが難しいんです。実は、今麺業界で人気の小麦粉がありません、通常うちみたいな小さい製麺所には卸してないところを無理言って少ロットでやっても

らっているのです、立場が弱いんですよ。でも、この小麦粉のおかげで良い麵をつくる事ができていますので……」

新葉：「んー、運転資金の必要性はよく分かりました」

丸山：「ぜひなんとかお願いしますよ。前年はなんとかがんばって利益のほうは確保できましたので」

新葉：「確かに、純利益は14万円ほど増えていますね。小麦粉以外の仕入れを下げられたんですか？」

丸山：「ちよつと詳しいことは分からないですが、とくに何かしたということはありません」

新葉：「そうですか。では作業場のほうも見せていただいでよろしいですか？ さつきから小麦粉のいい匂いがしていて、なんだかお腹がすいてきちゃいましたよ」

丸山：「よかつたら一杯いかがですか？ 賄い用のスープがあるのです、すぐにできますよ」

新葉：「え、いいんですか！

まさか製麵所でつくりたての麵を頂けるとは期待していませんでしたよ。うれしいな」

丸山：「どうぞ熱いうちに召し上がってください」

新葉：「……うん。旨いですよ！ 初めてこんなできたての麵を頂きました。香りと触感が生々しくてすごくおいしいですよ！」

丸山：「そう言っていただけけるとうれしいです。この味と香りを出すにはやはりこの小麦粉が欠かせないですよ」

新葉：「しかしこの麵はかなりの細麵ですね！」

丸山：「そうなんです。これもうちの売りなんですけど、この細麵用の製麵機は特注なんです」

新葉：「まだ新しそうですかね？」

丸山：「そうですか？ もう数年使っていますよ」

新葉：「そうでしたか。他の機械もあまり古くなさそうですね」

丸山：「手入れを入念にしている

るので、そう見えるんだと思います」

新葉：「丸山さんは几帳面な方なんです。この作業場から伝わってきますよ」

丸山：「製造の現場は整理整頓が基本ですから」

新葉：「さすがですね。では、今日はごちそうさまでした。あと、平成21年度と22年度の償却資産申告書をお借りできますか？」

丸山：「それはいま手元ないので顧問の税理士に頼んでおきます」

新葉の判断

今回、新葉は、追加運転資金の必要性には納得したものの、製麵機械が充実していることなどが気になり、一応、償却資産申告書を確認した。

確認の結果、平成22年度試算表とは金額が合致せず、2150千円の製造設備が未計上であった。そして、それに伴う減

価償却費538千円も未計上であり、これを含めると売上原価は28455千円になる。また、平成22年度には製造設備の除却も行われており、431千円の除却損も未計上であった。これを特別損失として計算すると、当期純利益は試算表の金額から969千円減少し、402千円の純損失となる。

減価償却費は出金を伴わない費用であり、このような操作をしても支払能力を見るうえではあまりインパクトはない。丸山氏がなるべく業績を良く見せたかったことの表れであろうが、

どうせなら正直な対応をお願いしたいところである。

新葉の実態推測 (単位：千円)

項目	簿価	→	実態推測
機械装置	6,149	→	8,299
減価償却費	1,537	→	2,075
売上原価	27,917	→	28,455
売上総利益	9,597	→	9,059
特別損失	0	→	431
当期純利益	567	→	-402